

人に勇気や感動を与えられることを信じ

大学職員とレスリング選手を

両立させる日々

Topics ②

中央大学経済学部事務室で働く天野雅之さんは、2011年に法学部を卒業して大学に入職してまだ1年の新米職員。普段は学生の履修相談や生活相談にあたっているが、その一方で、日本を代表するレスリング選手として世界を舞台に活躍している。

経済学部事務室職員 天野雅之さん（2011年法学部卒）

昨年の全日本で初優勝
ロンドン五輪を目指す

天野さんは、中大職員になって初めて参加した昨年4月の明治杯全日



天野雅之さん

本選抜レスリング選手権大会男子グレコローマンスタイル84kgで初優勝した。中央大学から全日本チャンピオンが誕生したのは、1981年に竹中徹さんがグレコローマン100kg級で優勝してから31年ぶりという快挙だ。同年12月の天皇杯全日本選手権でも優勝し、正式に日本代表に内定した。

それからロンドン五輪出場を目指した天野さんのチャレンジがはじまった。今年1月25日から2月14日まで日本代表選手の一人として海外遠征に参加。1月28、29両日に

トルコのイスタンブールで開かれた「ベービ・エムレ国際大会」に出場後、ハンガリーに移動し、欧州の選手との合同練習に参加。さらに2月11、12両日はソンバトヘイで「ハンガリー・グランプリ」に出場した。

3月末に行われる五輪アジア予選大会前の最後の試合だったが、「結果としては2回戦敗退と良い成績は残せませんでした。内容はよかったです」と振り返る。「アジア予選までに弱点を無くし、技の精度を上げていきたい」とロンドン五輪切符を目指して意欲に燃える。

1年の休日は12月31日だけ
9kg落とす過酷な減量

大学職員とレスリングの両立は決して生易しくない。「社会人1年目は初めてのことばかり。社会人と学生との責任の差を感じました。一時期は仕事と練習の両立に悩んだこともありました」と率直に語る。そんなとき支えてくれたのは、職場の方々や多くの友人、家族で、特にレスリング部の後輩たちは「試合前には体調を気遣ってくれ、部活が終わった後も練習に付き合ってくれた」と感謝する。

レスリング部のコーチも務めている天野さんは、平日は大学に出勤前に練習。仕事が終わってからも学生とトレーニングに励む。土曜日曜は中央大学の練習や全日本の合宿に参加する。全日本合宿は平日にも行われているため、天野さんは平日には仕事があり参加できない。このため、他の全日本のライバル選手に比べて練習量は少ない。それでも「高校、大学と学業を優先に自分で考えて練



全日本で優勝した天野さん

始めた頃は練習がきつく、楽しさが分からなかつた。「辞めたい」と思った時もあったが、そのうち試合で勝てるようになると、だん

だん楽しさが分かってきた。高校では優勝することはできなかったが、「攻めるスタイルが良い」といくつかの大学から声がかかった。その中でも一番に声をかけてくれたのが中央大学だった。

「大学1年のときは1回戦負けが多くて、なかなか良い成績が残せなかつた」が、2年生からいきなり伸びた。きっかけになったのは、愚痴を聞いてくれるなど親身になって応援してくれていた人が、病気で亡くなる前に「私は病気でくじけそうになつたとき、彼らを見ていて勇気をもらい、頑張れる」と話していたのを他の方に聞かされたからだつた。

「スポーツには、人に勇氣や感動を与えられる力があることを知りました。このことがきっかけで気持ちを入れ替え、中途半端にやつてはいけないと思うようになりました」

「大和魂」持った選手目指す 感謝の気持ちを忘れずに

その後、天野さんは目覚ましい成長を遂げる。大学卒業を控えた4年生の時、いくつかの実業団から声がかかったが、「コーチとして選手たちを育てていけないか」と中大の顧問、監督に声をかけられ、自分を育ててくれた中大に恩返しをするために職員の道を選んだ。

「レスリングを、もつと国民に関心を持つてもらえる競技にしたい」という天野さんが目指すレスリング選手像は、「大和魂をもつた礼儀のある日本人らしいプレイヤー」だ。海外の選手に負けない体力づくりをして、「大技で闘っていく」と力強く答えた。

「多くの人たちに支えられている、という感謝の気持ちをいつも忘れてはいけない」と自分自身に心がけを投げかける一方で、学生に対しては「学生の今だからこそできることがたくさんあります。勉強して多くのことを知り、たくさんの人に出会っていろいろな良い経験をして欲しい。中央大学に来てよかったと思える学生生活を送ってください」とメッセージを送ってくれた。

(学生記者 萩原睦II法学部4年)

習してきたので、今でもわずかな時間で効率よく練習するように心がけています。」と苦勞を見せない。年末年始も全日本の合宿があり、元日から練習があるので、12月31日が1年で唯一の休みだ。

身長182センチの天野さんは、大会前は計量までに1週間から10日間かけて体重を9kg減らす。「計量の1日、2日前は水もほとんどらない状態」と減量は過酷だ。最後はサウナや風呂でも汗を出すようにしている。計量後のリバウンドも重要で、「3、4キロを一気に戻す」と

いう。

はじめたのは高校から 大学2年から強くなる

レスリングを始めたのは東福岡高校からだ。「子どもの頃から警察官になりたかつた」ので、格闘技を始めた。それまでは水泳を10年間、野球を中学で3年間経験した。「中高一貫校に通っていたので、中学の英語の先生が高校のレスリング部の監督も務めていたんです。その先生からレスリングを勧められ、高校では入部することに決めました」。

「多くの人が、もつと国民に関心を持ってもらえる競技にしたい」という天野さんが目指すレスリング選手像は、「大和魂をもつた礼儀のある日本人らしいプレイヤー」だ。海外の選手に負けない体力づくりをして、「大技で闘っていく」と力強く答えた。